

## 第77回 8月のCOMC（銅公開市場委員会）声明

### 第77回 COMC声明

- ①電気銅 建値予測 690-750円
- ②銅相場のトレンド ベア
- ③LME銅セツル予測 5,800-6,500ドル
- ④為替トレンド予測 円安高
- ⑤ドル円予測(TTM) 109-113円
- ⑥スクラップ景況感

お盆休み前の回収、整理依頼で多少入荷が増える模様。猛暑で作業効率はがた落ちとの事。

#### 【概況】

前半は、チリ鉱山をめぐる供給不安や米雇用統計の内容を好感するなどのプラス材料もあったが、米国が500億ドル（約5.5兆円）規模の中国製品に対する追加関税発動に向け動き出した。これに対し、中国も同規模の米国製品に対する報復関税を表明したことを嫌気

しDOWN。

7月15日時点で6,166ドル（セツル）と月初価格より429ドル安の前半締めとなった。

後半は、BHP傘下のチリ・エスコンディダ銅山での資金交渉をめぐってスト突入の恐れが高まっていること、欧州は貿易問題でアメリカとの貿易戦争はやめて落とすところを探る方向にいくなどプラス材料もあったが、中国商務部が「米国の貿易に関する脅し、いじめは理解できず報復措置を取らざるを得ないとの発表！トランプ米大統領も7月に公表していた2,000億ドル分の中国製品を対象とした対中制裁の関税率を当初の10%から25%に引き上げるよう米通商代表部（USTR）に指示するなど貿易戦争の長期化を懸念し下落。8月3日現在、後半スタート価格から80ドルDOWNの6,063ドル。建値75万円のスタート。 【次頁へ】

平成30年8月10日（金）

## 日刊金属

（第三種郵便物認可）

今後の動向であるが、今回のCOMCにおいては、

A・米中貿易戦争の動向

B・23～25日のジャクソンホール会議

以上の意見が非常によく聞かれた。

A、に関しては報復関税VS報復関税の流れから出口が見えずまた話し合うなどの提案も未だないことから長引くのではないかと

B、に関しては貿易戦争の拡大による経済への影響を鑑みて、利上げのペースを落とす（もしくは凍結）ことが示唆されるのではとの観測が一部メンバーからあったが、今年の利上げに関してはコンセンサスができており、来年の利上げがいつまでに何回行われるかに市場の注目は行っているようで期待薄。

これらを踏まえ、当委員会としてはベアの見通しを立てた。

米中貿易戦争で緩和に向かう何らかの話し合いや政策が出て、ジャクソンホール会議で利上げペースを落とすなどの緩和メッセージが出た場合、6,500ドル付近。両条件が揃わなかった場合現状からもう一段安の5,800ドル付近まで下落するとの予想。

- |      |        |           |    |
|------|--------|-----------|----|
| 【議長】 | 橋本健一郎  | （橋本アルミ）   | 大阪 |
| 【委員】 | 荒井義明   | （荒井明商店）   |    |
|      | 角井聡一郎  | （角井地銅商店）  |    |
|      | 勅使河原孝行 | （テシ商店）    |    |
|      | 棚町祐次   | （IRユニバース） |    |